

(2) 東北



東北地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、改善の動きがみられる。

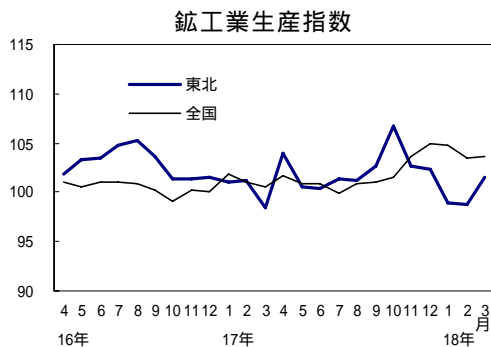
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 18 年 2 月）	今回（平成 18 年 5 月）	
住宅建設	増加	減少	
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きも強い	依然として厳しい状況だが、改善の動きがみられる	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

電子部品・デバイス、モス型半導体が、好調だった年末商戦の反動を受けたことや業務用の磁気ヘッドが不調だったことにより減少している。食料品・たばこは、冷凍水産食品や練乳、バターなどが低調であったため減少している。情報通信機械は、プリンターや外部記憶装置などが海外に生産移管された影響やパソコンが年末に生産を前倒しした反動により減少している。一般機械は、金型が自動車向けをはじめ、半導体関連など全般的に好調に推移したことにより増加している。電気機械は、標準変圧器や開閉制御装置が好調に推移したものの、産業用テレビ装置が低調に推移したことにより、おおむね横ばいで推移している。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成18年3月の東北は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
電子部品・デバイス	19.3	6.4	13.2	11.6	3.1
食料品・たばこ	12.9	2.2	2.6	1.4	26.5
情報通信機械	11.6	5.7	11.1	9.1	31.9
一般機械	8.6	3.5	1.8	3.2	11.7
電気機械	5.8	1.0	0.9	3.7	9.8
鉱工業	100.0	2.1	3.9	2.7	7.9

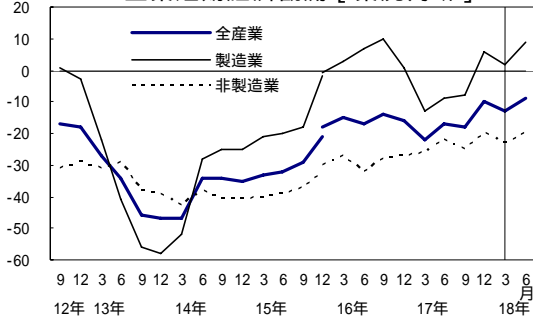
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 1~3月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。

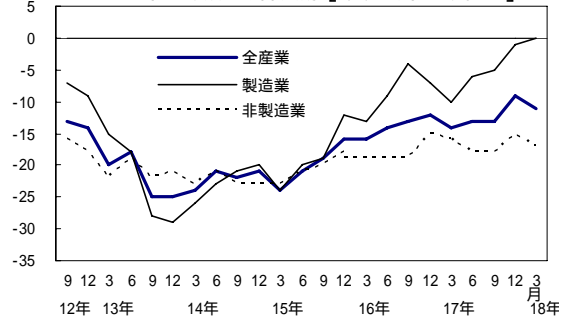
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



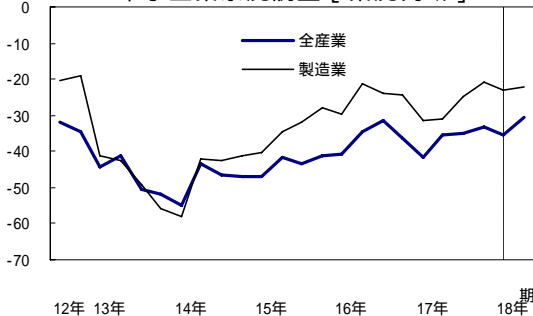
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。18年6月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「住宅部材の値上げによる採算の改善を行おうとしているが、値上げ交渉がなかなか進まず、収益改善が不十分である(木材木製品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 17年度の設備投資は前年度を下回る見込みとなっている。

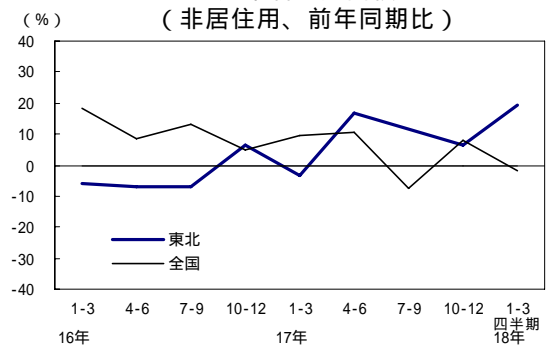
企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

(前年度比、%)

	17年度実績見込み	18年度見込み
全産業	2.4 (3.6)	5.3
製造業	6.7 (7.7)	8.5
非製造業	2.1 (0.6)	2.2

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

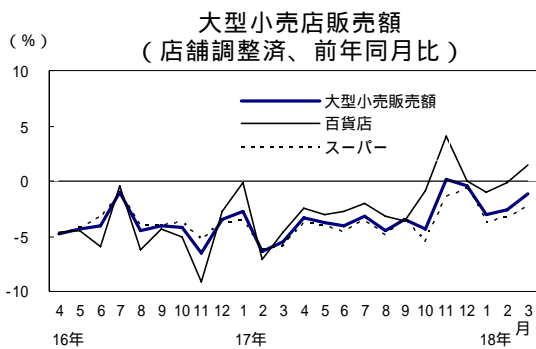
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、初売りで身の回り品のブランド福袋や高額商品が好調であったものの、春物衣料の動きが鈍かったことから前年を下回った。2月は、春物や卒業・入学関連の婦人、子供衣料が前年を上回ったものの、身の回り品などが前年を下回ったため全体としてはおおむね横ばいで推移した。3月は、改装効果による影響や、衣料品、身の回り品が好調に推移したことで全体でも前年を上回った。なお、日本百貨店協会によると、東北地区の4月の売上高は、前年同月比で3.4%減となっている。

スーパーは、酒、惣菜などに動きがみられたものの、衣料品が低調に推移したことにより、全体では前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

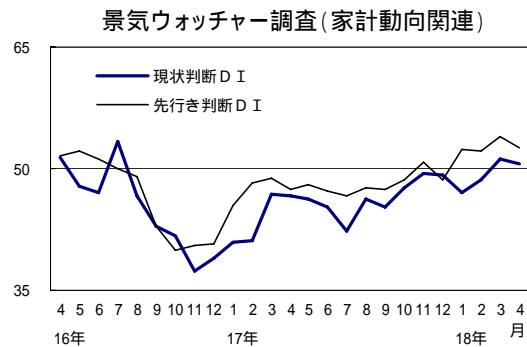
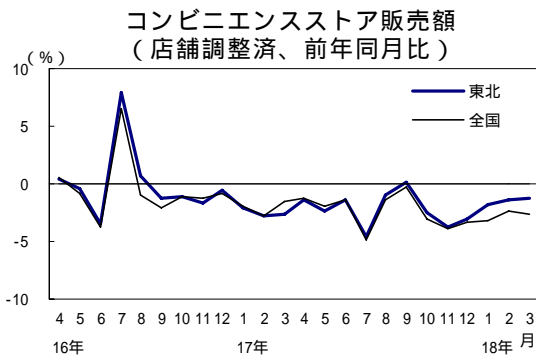
「値下げを実施したところ来客数がどっと増えた。客は、単価を下げると来る層と単価が高い高付加価値の商品を求めて来る層とに二極化している(一般レストラン)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	17年4-6月	7-9月	10-12月	18年1-3月
大型小売店	3.8	3.7	1.5	2.3
百貨店	2.8	2.9	0.9	0.1
スーパー	4.1	4.0	2.5	3.1
コンビニ	1.7	1.8	3.1	1.5
景気ウォッチャー	46.1	44.6	48.7	48.9

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

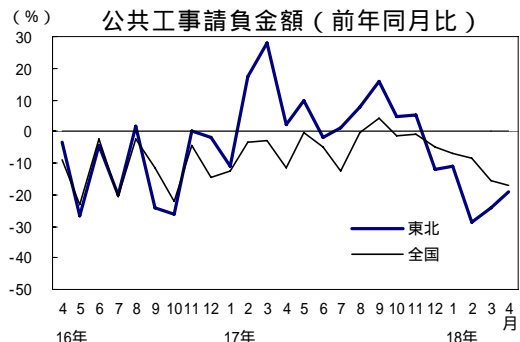
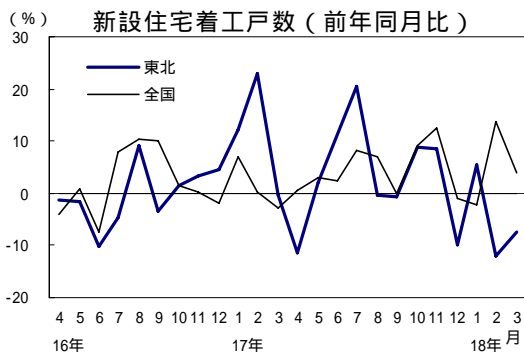
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は減少している。

貸家が前年を上回ったものの、持家、分譲が下回ったことから全体では減少している。

(3) 公共投資は17年度累計で見ると前年度とほぼ同水準になっている。

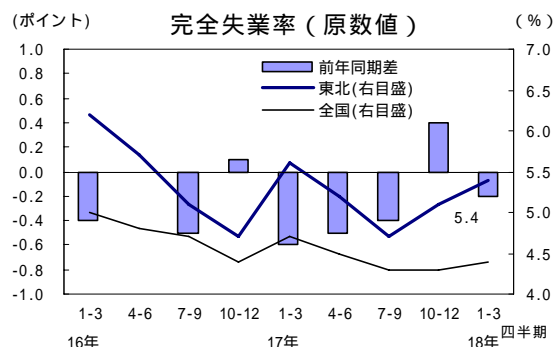
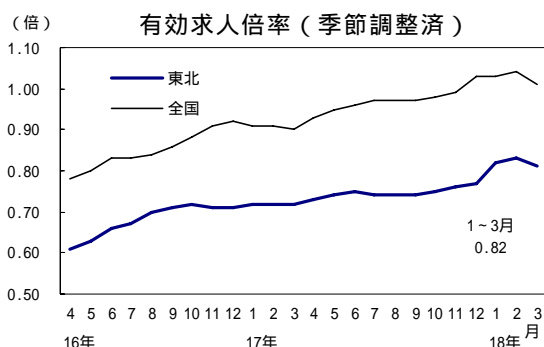


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、改善の動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(4月)[雇用関連(現状)]

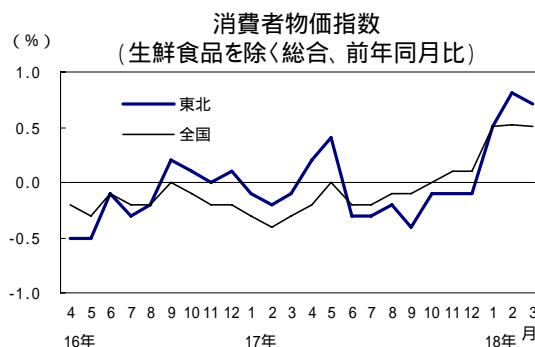
「登録希望者が少なくなっている。特に若年層(20代)が顕著である。各企業の直接採用が活発なためである(人材派遣会社)」など、「良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	17年4-6月	7-9月	10-12月	18年1-3月	18年4月
倒産件数	247	248	218	225	73
(前年比)	1.2	11.7	8.8	3.8	6.4
負債総額	956	983	734	680	176
(前年比)	10.6	121.3	48.9	18.3	69.6



景気ウォッチャー調査(4月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・男女問わず、春物の動きが良い。また、節句の人形など歳時期商材も良好である。支出に対する抵抗感は薄れてきている(百貨店)

<先行き>

・自動車部品並びに民生需要については、引き続き好調に推移する。懸念されるのは急激な円高であり、今後円高が更に進行すれば景況感は悪化する(一般機械器具製造業)

